



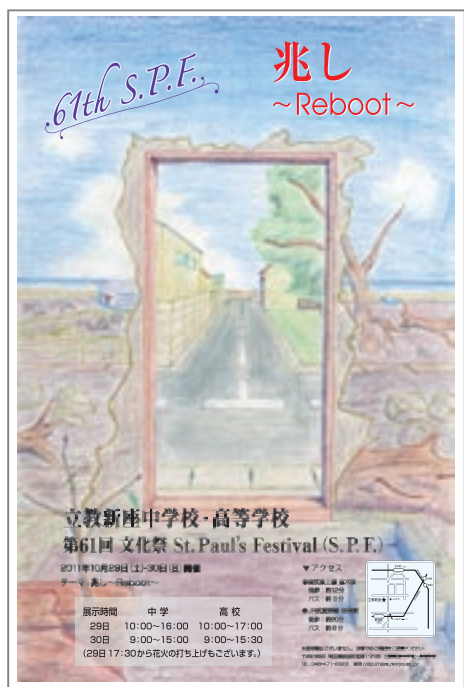
Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza.rikkyo.ac.jp/>

〔No.55〕

特集 — S.P.F. (St. Paul's Festival) —

今年61回を迎える立教新座の文化祭「S.P.F.」とは！歴史、先輩の証言、今年の見所などなど色々な角度からS.P.F.を紹介します。立教新座の生徒にとってS.P.F.とは一体何なのか、この号でわかる！！



第61回 S.P.F.ポスター

S.P.F.にむけて

立教新座中学校・高等学校の文化祭は、学内では、通称名のS.P.F.で親しまれています。これは、St. Paul's Festival (セントポールズ・フェスティバル)を略したものではありませんが、学友会本部室には「聖パウロ祭実行委員会」という古いゴム印が残されています。ある時期まで、「聖パウロ祭」と呼ばれていたことが彷彿されます。立教新座中高は、前身の立教高等学校時代から、2000年に中学校を併設して今日に至りますが、第61回目のS.P.F.を、震災を経験した2011年に、無事に迎えることが出来たことを心より感謝したいと思います。当日は義援金ボックスをロビーに設置し、実行委員会より募金の呼びかけを積極的にさせて頂きたいと思っています。

S.P.F.当日の催しは、高校生の研究発表、模擬店等が中心の本館、中学生のクラス展示・校外研修の研究発表が中心の2号館、中高文化部を中心とした、クラブ活動の成果の発表及び中学教科展示が中心の3号館、音楽団体のコンサートが行われるチャペル、そして体育館及び各フィールドでは高校体育部による招待試合等が開催され、各会場で全学的なイベントが行われます。実行委員会本部企画としては、恒例となった、初日に行われる花火の打上を初めとして、来校者参加型の中学本部企画、中高合同キャンパスツアー、来校者の投票によるベストアイデア賞、そしてデッキステージや体育館で行われる生徒有志のパフォーマンスなど、今年も盛りだくさんの内容になっています。

通用門に製作されるテーマ「兆し(きざし) -reboot-」のアーチをくぐり、多くの皆様にご来場頂けますことを、心より願っております。

学友会本部長 中間 和洋

卒業生よりS.P.F.の思い出

私は1998年度卒業、高校時代には学友会会長をしていました。特に盛んな高校生時代、立教に学んだ事は多岐に及びますがその中でも代表的なものは「自由な学府」故の責任感です。

立教の校則は他校と比較しても極めて自由。クラス単位、部活単位で寄せられた「思いのまま」の出展計画。担当の先生の懸念材料を各々の責任において、議論を重ね1つずつクリアにしていきます。当然行き過ぎた内容の中には実現しなかった事も在るのですが、そんなプロセスを通じて我々は「やりたい事=自由」には自己責任が伴うことを痛烈に学ぶのです。引かれたレールは無く、自分達でレールを「創造」し実現、遂行して行くプロセスは、校則で雁字搦めの学校では学べない貴重な経験と成りました。

社会に出て、立教で学んだ事の強みは一貫校としての有意義な時間にあると感じています。大学受験に奮闘する代わりに、勉強からは学び得ない人間として大切な自己成長と経験のために多くの時間を費やせたことは、何も代え難い貴重なものとなりました。

学び舎を共にする現役の若き同朋にも、生涯の仲間を見つけ、貴重な経験を育んでもらいたいと陰ながらエールを贈り卒業生のメッセージと代えさせて頂ければと思います。

1998年度卒業生 山内 桂太

私は高校3年生のとき、S.P.F. 実行委員会に入り、復元パート長になりました。

実行委員会に入ったのも友達の付き添いで入り、パート長になったのも誰も立候補しないからという動機はとても不純なものでした。実際、入ってからもただなんとなく毎週パート長会議に出席しているだけで、S.P.F.を自分達で成り立たせるといふ実感は湧きませんでした。それがS.P.F.が近づくにつれて仕事が増えだすと、みんなでS.P.F.を成功させようという気持ちが芽生え、実行委員の中で強い団結感が生まれてきました。自分が担当する仕事だけでなく、私のように他と比べて仕事の少ないパートでは本部企画などの手伝いを積極的に行いました。

S.P.F.当日も本部企画であるハロウィンの格好で、来てくれたお客さんと写真を撮ったり、お菓子を配ったりして、復元の仕事だけでなく、本部企画の仕事を全うしました。片付け後の最後の会議では、このメンバーでS.P.F.を成功させることができ本当に良かったとみんなが思えた瞬間でした。



2008年度卒業生 井木 太一郎

S.P.F.の歴史

S.P.F.の歴史を過去のプログラムからのぞいてみましょう！

S.P.F.と改称して初の開催に実行委員長は挨拶の中で「待ちこがれた我等の恋人『S.P.F.』を迎えて～」と興奮しています。ここまでの愛情を私達も受け継いでいきたいですね。
この年の出来事：ベトナム戦争開戦。



1970年 第20回の時の通用門アーチ



第36回のプログラム

この年（1986年）にハレー彗星が大接近して話題となりました。

その年の出来事がプログラム表紙に反映されているのでしょうか。

1951年（昭和26年）
第1回 S.P.F.の前身の文化祭がおこなわれる

1960年（昭和35年）
第10回 新座に移転。文化祭の名称を「S.P.F.」に改称

1966年（昭和41年）
第16回 全クラス参加から希望クラスで開催



1978年 第28回の時の様子

1982年（昭和57年）
第32回 初めてテーマを決めて開催

80年代は光 GENJI・バンドブーム・ねるとん、とテレビで流行ったものをどんどん取り入れている傾向があります。

1998年（平成10年）
第48回 今までプログラムに載せていた広告がなくなる

2000年（平成12年）
第50回 初めての中学校参加のS.P.F.

第2回文化祭の学友会副会長の挨拶には「生徒諸君が自ら計画し主催者となって文化祭と言う名で一つの催しを営んで～」とあります。自由の学府の立教ならではの伝統、「生徒が主体となつてのS.P.F.」の息吹がこの時すでに感じられます。
この年の出来事：NHKの紅白がスタート。

この年の学友会本部長挨拶には流行りに走り過ぎる傾向に苦言を呈する挨拶の中で「エレキがあるいはウエスタンが人気を集めてきた。」とあります。いつの時代も流行りを追いたいのが若者の心理なんですね。
この年の出来事：「ポッキー」が発売開始。



1983年第33回の時の様子

テーマを決めての開催は、この後続いています。初めてのテーマは「創造と参加」深いコンセプトが感じられますね。
この年の出来事：「笑っていいとも」が放送開始。

企業に呼び掛けてプログラムに広告掲載し、プログラム作成費用等の運営費にあててきましたが、この年から広告がなくなりました。背景には、大学生の学園祭とは異なり、高校生の文化祭で企業からの広告費で運営費を補うのはやめていこう、という議論が重ねられ、おりしもワープロが普及し、業者に依頼せずとも、高校生でもプログラム作成が容易になったこともあり、広告掲載を行わないことになりました。
この年の出来事：FIFAワールドカップで日本代表が初めて試合を行う。

ご紹介させていただいたのは長い長いS.P.F.の歴史のほんの一部ですが、先輩の思いや時代とともに歩んできたS.P.F.の変化を感じていただけたと思います。この先もS.P.F.は伝統を守りながら進化していくことでしょう。

2011年度 S.P.F.の見どころ

歴史あるS.P.F.の伝統をどのように受け継ぎ、どのように新しいことに挑戦しているのか！
一部ですが今年のS.P.F.のみどころを紹介します。

クラブ活動展示

〔水泳部〕

水泳部喫茶店「EIGER」です！！
今年は、定番メニューのケーキ・シュークリーム・こだわりのコーヒーに加え、種類に富んだサンドウィッチやプリン等もあります。食事をしたい方、一休みしたい方、是非いらしてください。皆様をお待ちしております。

今年で「EIGER」はたくさんの方々
に支えられ、32周年を迎えました。私たちは毎年レベルアップした喫茶店を展開していきます。なぜなら、たくさんの方々の支えに応える、32年積み上げてきた伝統を伝えるのが私たちの使命だからです。私たちは「安らぎのひと時・幸せのひと時」を目指し、居心地の良い雰囲気作りを力を注ぎます。もちろん、食べ物や飲み物もこだわっています。どの喫茶店よりもそれは誇れます。

毎年きまってこの時期は天候に恵まれません、どうぞお越しください。お待ちしております。

高校2年4組 篠原 孝知

〔化学部〕

私たち化学部は、今年のS.P.F.ではきれいな炎色反応、錬金術、ドライアイスを使った不思議な実験、そして振動反応など楽しい実験を皆さんに紹介します。

炎色反応は定番の実験ですが、なぜ発光するのかなどの仕組みを丁寧に説明します。錬金術は、金属の銅片を金や銀のような物質に変える不思議な実験です。ドライアイスの実験は溶液の色を変化させる実験、振動反応は周期的に色に変化する実験です。

また、普段は金属のイオン化傾向、反応熱と物質の温度変化、気体の発生と噴水実験の定量化、アゾ染料の合成とクロマトグラフィ、その分析装置の開発などの研究をやっているのです、その中の一部も紹介する予定です。

今年は楽しい実験だけでなく、ちょっと硬い展示もするつもりなので、是非お越し下さい。

高校2年6組 西野 龍平



〔演劇部〕

演劇部では、「予想」を上演します。

とある高校のバスケットボール部の部室が舞台。自分のミスで試合に負けてしまった部員が落ち込んでいる。それを慰めようとする仲間達。男の友情があつたりなかったり。しかしその後、思いがけない展開が…。

演劇部では、自分達がやりたいことを出しあって芝居作りをしています。今回の「予想」は、既成台本を部員全員で改作して、立教新座高校演劇部オリジナルバージョンを創り上げました。30分という短い芝居ですが、部員達の趣味や個性が炸裂した濃い内容となっています。部員達の熱い演技をお楽しみください。

また、教室が劇場になります。観客席、舞台、音響、照明なども工夫して、普段の授業とは異なる空間作りを目指しています。

皆さんの「予想」をはるかに超える舞台を作るために、頑張っています。ぜひ観に来てください。

演劇部顧問 児玉 朝子

S.P.F.実行委員会本部

キャンパスツアー

今回第61回を迎える本校の文化祭で、「立教新座キャンパスツアー」は今年度も引き続き実施することになりました。この企画は6年前に中高合同本部企画としてはじめて実施されたもので、S.P.F.という本校最大の中学生徒会・高校学友会行事の機会を使って、受験生やその保護者の方を始めとし、様々な来校者の方々に、本校の教育施設及び、教育活動、課外活動など本校のことについて多くのことを知ってもらうため、現役の中高生が思い出などを交えつつ説明し、校内を案内するという内容になっています。去年のツアーでも案内した歴史ある高校校舎や、まだ新しい中学校舎、陸上競技場や、体育館、チャペル、図書館はもちろんのこと、今年度は去年工事中で見ることのできなかった緑地や、プレイコート、プレイグラウンドなどの施設も含むことによって、さらにツアーの内容が充実しており、去年来てくださった方々にも満足のいくものに仕上げようと思っていますので、2階2年7組教室にお立ち寄りの際はどうぞご参加ください。

皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

高校3年2組 キャンパスツアーパート長 田中 良治

看板パート

今年で61回目となる歴史ある文化祭で多くの先輩方が本校の文化祭を成功させるべく努力してきたので、そうした先輩方が築いた文化祭よりも更に良い文化祭にしようと、私達は日々準備に明け暮れています。

今年は東日本大震災が起り、多くの人々が混乱に巻き込まれました。そのような中で私達は文化祭のテーマを「兆し(きざし)～reboot～」として、また新たにスタートを切ろう(reboot:再起動)という意味を込めて文化祭



に取り組んでいます。私は看板パート長なので通用門のアーチは爽やかかつ明るいものを作る事によって、見た方の気持ちを新たに切り替える。という意味を込めてとても清々しいデザインに決めました。

看板作りは大変ですが、このアーチが、将来良い思い出になったらと思いつつ、立派な作品を残したいです。

高校3年3組 看板パート長 西 啓太

1/立教新座(りっきょうにいざぶんのいち)

vol.4

今回の1/立教新座では、以下の3人の高校生からS.P.F.について話を聞きました。

学友会会長： 池本 慧
学友会副会長： 須賀 照真
S.P.F.実行委員長： 松森 悠

—まずS.P.F.におけるそれぞれの役割について教えてください。

池) 本部企画のパート長として本部企画やイベントを取りまとめる仕事をしています。学友会会長ですが、S.P.F.準備については、ひとつの役割を担っています。

須) 僕もS.P.F.では、受付パート長としてパートの仕事を進めていく役割を担っています。

松) 実務は各パートに任せているので、僕は何もしていませんかね。(笑) 作業全体の管理や、問題が起きた時には僕が対応することになります。

—松森君はなぜ実行委員長になろうと思ったのですか？

松) 来校者にとって、立教新座が一番見ることができる行事がS.P.F.だと思います。そんな行事を自分が作ってみたいと思ったのがきっかけです。あと、高校生らしい文化祭に憧れて実行委員長になりました。

—S.P.F.の準備をしてきて、楽しかったこととか大変だったことって？

須) 松) 大変なことはいっぱいありますね～。

須) 特にパート員には知らない後輩なんかも多くいて、最初仕事の割り振りとかを決める時に、やっぱり先輩から無理やりっていうのじゃなくて、話し合いで決めていきたくかったので、コミュニケーションをうまくとるのが大変でした。でも慣れてくると後輩ともどんどん仲良くなれたので、今は楽しいですね。

松) 僕は、言葉を選んで話すように心掛けていました。よく知っている友達、あまり知らない友達、先生など、思っていることを伝えたりお願いしたりするのに、言い方を考えないと思っていることが伝わらないので。実

行委員長をやって、いろんな人と関わっておかげで人脈が広がったと思うので、とてもいい経験ができています。と思っています。

—実行委員をやって得られたことってどんなこと？

松) 人の意見を中立的に聞けるようになりましたね。それまでは、自己主張が強くて、自分の意見ばかりを言っていたのですが、相手を尊重しつつ解決策を見つけていくことができるようになったかなと思います。

池) 頑張る気持ち！あきらめない心！ですかね(笑) 準備の段階で大変なことがいっぱいありますけど、めげずにやってこられたかなと。気持ちが強くなったと思います。

須) 楽しくやりながらも責任感をもって行動できるようになったと思います。

—今年のS.P.F.のテーマはなんですか？

松) テーマは「兆し(きざし)～reboot～」です。rebootって再起動って意味なんですけど。

—なぜそのテーマになったのですか？

須) 今年は、大震災があったじゃないですか。なので、例年よりもチャリティーの強化を考えながら進めてきました。被災者の方々の生活って一度全て崩れてしまったじゃないですか。だけど時間をかけても復興していければ、兆しみたいなものが見えて、再起動できるんじゃないかなあって。

松) テーマを決める時、みんな大震災のことが頭にあったので、S.P.F.ができることへの感謝とか、大震災を意識したテーマが候補としてあがりましたね。

池) あとは、今年がS.P.F.61回目なんですよ。なので、また新たに1からスタートする「再起動」っていう意味もあります。

—どんなS.P.F.にしたいのですか？

松) 内輪だけで盛り上がるのではなくて、もちろん盛り上がりながらもですが、

来校してくれた人達から見ても楽しいというような、全体で楽しめるようなものにしたいです。

池) 高校生は自由参加なので、毎年、全員が参加している感じではないんです。なので、今年は全員が楽しめるようにできればと思っています。

松) 今年は生徒の参加型企画が多いんです。今年はそこが見どころかと思えます。

—では最後に、S.P.F.で来校者に立教新座生のどんなところを見てほしいですか？

須) 全展示イキイキと楽しくやっているところですかね。受験生がその雰囲気を見て、自分が高校生になった時に、展示をやってみたいと思ってくれたらいいですね～。

池) 頑張って準備をした結果をみてもらいたいです。みんなで一体となって作ってきたので、一体感みたいなものも感じてもらえるといいかな。

松) 日常生活で思っていることですけど、立教生ってみんな仲がいいし、楽しいし、笑顔が本当に多いんです。友達じゃない人を傍から見ても面白いっていうか。あと、先輩が後輩に親切に関わっているっていうのも立教新座らしい特徴かと思いますね。そんな雰囲気を感じてもらえるといいですね。

—ありがとうございました。

今回は、高校生3人からのインタビューということで、高校のことを中心に話を聞くことができました。中学校でも各学年、クラス毎の展示を行っており一生懸命当日に向けて準備をしています。今年のS.P.F.が楽しみです。



左から、池本、須賀、松森

キャンパストピックス

海外研修旅行

国境を越えた交流

中学3年E組 井村 圭太

今回のアメリカサマーキャンプは、自分にとって初めての海外旅行でした。行きの機内でコーヒーを頼んだのにコーラが出て来たというほろ苦い海外デビューをし、自分の英語力の低さを痛感しながらアメリカの地に足を踏み入れました。サンフランシスコではゴールデンゲートブリッジや生徒だけの班別自主研修を楽しみ、また一番楽しみにしていたメジャーリーグ観戦は、球場やファンの雰囲気や日本のプロ野球とは全く違って驚き、乱闘も見ることができたので大満足でした。

3日目からのキャンプステイブンスでの生活で一番印象に残っているのはJAPAN DAYです。僕は書道担当でしたが、アメリカの人が書道に興味を持ってくれて大行列ができました。最終日の夜のダンスパーティーはアメリカ人も日本人もみんな我を忘れて大騒ぎしたため、あまり記憶がありません。

ホームステイは牧師さんのお宅で、皆とても優しくしてくれました。あまり完璧な英語で話すことはできませんでしたが、ある程度意思の疎通ははかれたと思います。この頃には相手の言っていることが大体分かるようになっていました。

今回、本当に貴重な体験をしたと思います。生の英語に触れたこと、大自然にたくさん触れたこと、そして何よりもコミュニケーションを取るのに国は関係ないということに気付かされました。キャンプの中でもアメリカ人の友達がたくさんできたので満足しています。海外でキャンプをするという経験はもう一生ないかもしれません。だからこのキャンプでのことを絶対に忘れないようにしようと思いました。

最後に僕がこのキャンプに参加する上で支えてくださった方々に感謝し、文章を締めたいと思います。本当にありがとうございました。



英国サマーキャンプ

高校1年4組 石附 陸

8月5日から8月24日までの20日間は、今の自分にそしてこれからの自分にとってとても良い貴重でいい経験になったと思う。

英語は将来の自分に必要不可欠なものであると分かっていたが、いつの間にか、自分の苦手科目になってしまっていた。だから短期留学をして今の英語力が少しでも上がればと思い、申し込んだ。申し込んだ当初は、不安と期待が入り混じっていた。いざ、英国に着くと不安だけがピークに達してしまっただけで、その不安とは、今の英語が通用するのか、というものだ。しかし実際にホストファミリーと会い、話してみると少しずつ不安が和らいでいった。それは、自分の英語が十分に通用し、積極的に会話をすることができたからだ。それにとっても親切で、わからない英語は丁寧に教えてくれた。序々に英語で会話することに慣れ、充実した毎日を送ることができた。

当たり前だが、英国での生活は全てが新鮮だった。だから様々なことを吸収できたり、楽しく英語を学ぶことができた、この貴重な経験を絶対に無駄にはせず、今後の自分にプラスになるよう、努力していきたい。そしてまた英国に行きたい。

オーストラリア短期留学における現地でのスピーチ

英語科教員 佐藤 健

今年で20回という節目の年にあたるオーストラリア短期留学を引率をした際に、滞在校の全校集会における私のスピーチを英語から日本語に直して(概略)以下に記します。

「光陰矢のごとし」ということわざにもあるように、この3週間は瞬間に過ぎ去りました。みなさんのおかげで、多くの思い出をつくることができました。しかし、帰国すれば否応なしに、大地震と津波で起きた原子力発電所事故の災禍に、日本がいまだに苛まされているという現実を直視することになります。私は今回で4回目の訪問になりますが、豪州がウランの主要輸出国であり、全世界の10%を産出していること、また、豪州の北部にあるアボリジニーの人々の聖地にウラン鉱山の主だったものが位置することを、初めて知りました。もちろんウランを輸出することは利益をもたらします。しかし同時に、周辺の環境を汚染しているのではないかと指摘もあります。日本が広島と長崎に原爆を投下されたことは広く知られています。私の祖母も原爆の被害者です。そして悲劇が繰り返されて、今度は福島です。これらは以下の事実を示しています。乱雑な開発がいったん抑制を失うと、制御するのが困難か、不可能であるということです。確かに原子力発電は経済的であり、二酸化炭素の削減につながるかもしれませんが、しかし、危険を及ぼすものであることはまちがいありません。今述べた事例が人災であっても、このような悲劇が繰り返されることが不思議でなりません。日本の古い言い伝えに、「3本の矢は1本より強い」という内容のものがあります。我々は新たな予測不可能な時代へと突き進んでいます。そのような時こそ、我々の間に存在する差を乗り越えて、人智を結集することが必要です。1人では無理なことも、2人なら実現できるかもしれません。手を結ぶ人が多ければ多いほど、我々はより強靱になり、聡明になりえます。何よりも、2校と両国が、手に手を取り合い歩んでいけることを望んでいます。」

プロ棋士誕生

「おめでとう!」「よかったね!」…家族やお世話になった方々に次々に祝福され、思わず目頭が熱くなった
2011年9月10日を一生忘れることはないだろう。

将棋をはじめ12年近く。将棋のプロ棋士を目指す若者が、全国から集まって命がけで戦う「奨励会」という養成機関に入って6年半。2011年10月1日付でプロ棋士になることができた。

プロ棋士になることができるのは半年に2人、1年で4人だけ。奨励会に入ってもその中でプロになれるのは約2割、逆に8割はプロになることができない本当に厳しい世界である。実際、幼い時から一緒に頑張ってきた友達もどんどん辞めていった。

小6で「奨励会」に入会し、1年後立教新座中学に入学した。最初は不安も大きかったが、片道2時間を通い続ける継続力が将棋にもいい方向に向かったのだと思う。また「自由の学府」とある通り、6年目になるが、自由な校風で、優しい先生方、良い友人にも恵まれ、とても楽しい学校生活を送ることができている(勉強は時間が取れず大変だったが…)

応援してくれるファンの方、友人、家族・感謝の気持ちを忘れることなく、残り少ない高校生活とこれからの長い棋士生活を一步一步、歩んでいきたい。

高校3年6組 高見 泰地

チャペルだより

立教らしさ

いよいよS.P.F.が開催されます。本校に限らず、秋には多くの学校で文化祭を初め、様々なイベントが催されます。本館の壁にも、早くから各学校の彩り豊かなポスターが貼られています。また文化祭の名称も、その学校の伝統的なのでしょうか、とても個性的で、なるほど、と思わせるものがたくさんあります。わが立教新座のS.P.F.というアルファベット三文字の名前も、他校からみればユニークに思えるでしょう。しかし、英語のフルネームにすれば、単なる立教祭ですから、それほど個性のとは言いえないのかもしれませんが、それはさておき、文化祭で問われる

のはやはり中身の方でしょう。みなさんは、S.P.F.において何を披露したいですか？またどういう点を見てもらいたいですか？まあ、各団体あるいは一人一人望むものは異なるでしょう。でも、そうでありながらも、立教生としてみなさんが共通して持ち合わせたいものもなければならぬと思うのです。それが「立教らしさ」ではないかと思えます。では「立教らしさ」とは何でしょうか？

文化祭には多くの展示、出店、発表があり、各団体とも日ごろの成果を披露します。来校者もそうしたものを楽しみに行っているはず。そして、そうしたものを通して立教らしさはある程度伝わるかもしれません。けれども、立教らしさとはハード面のことだけを言っているではありません。むしろ、ソフト面の方こそ、立教らしさが多くあるようにわたしは思うのです。すなわち、みなさん

の来校者に対する接し方です。よく「おもてなしの心」とか「ホスピタリティー」という言葉が用いられますが、こうしたことの実践こそ、立教生らしい姿ではないかと思うのです。よく立教生は人がいいと言われます。これはもちろん良い意味にも、逆にあまり良くない意味にも解釈できます。もしこれがマイナーのイメージにとられているのなら、メジャーのイメージにしたらいいいのです。そして、S.P.F.はそうするためのいいチャンスだと思います。

わずか2日間の祭典ですが、これが立教生の人の良さかと思われるような接待をしてもらいたいと思います。そして、この姿こそ立教の建学の精神そのものではないでしょうか。

チャプレン 西海 雅彦

〈2012年度 入試日程〉

〈立教新座中学校〉

	一般 第1回	帰国児童	一般 第2回
募集定員	男子約100名	男子若干名	男子約40名
出願	郵送	1月5日(木)～18日(水)	消印有効
	窓口	なし	2月3日(金)
入学試験	1月25日(水)		2月4日(土)
合格発表	1月26日(木)		2月5日(日)
	掲示・郵送・HP		掲示・HP
入学手続	1月28日(土)		
	2月3日(金)		2月5日(日)

〈立教新座高等学校 推薦入試〉

募集定員	男子 約20名
出願	1月5日(木)～8日(日) 必着(郵送のみ)
入学試験	【一次】書類審査 【二次】1月22日(日)
合格発表	【一次】1月14日(土)【二次】1月23日(月)
入学手続	1月28日(土)

〈立教新座高等学校 一般入試〉

募集定員	男子 約60名
出願	1月18日(水)～26日(木) 消印有効(郵送のみ)
入学試験	2月2日(木)
合格発表	2月3日(金) 郵送・掲示・HP
入学手続	2月8日(水)

10/31(月)	S.P.F.代休 1年社会科校外学習
11/1(火)	秋季休業(～5)
10(木)	3年収穫感謝礼拝
13(日)	1年社会科校外学習
16(水)	1年収穫感謝礼拝
17(木)	2年収穫感謝礼拝
19(土)	1・2年音楽祭
20(日)	学校説明会(①9:30～②11:30～)
12/1(木)	イルミネーション点灯式
5(月)	期末試験(～7)
8(木)	1年美術特別授業
9(金)	スポーツ大会
16(金)	1・2年芸術鑑賞会
20(火)	英語スピーチコンテスト
21(水)	2学期終業礼拝・保護者学級会
22(木)	冬季休業(～1/7)
23(金)	1年社会科校外学習
25(日)	スキー学校(～29)
1/10(火)	3学期始業礼拝、宿題試験、英語実力試験
11(水)	1・2年学カテスト、3年GTEC
12(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
18(水)	1年聖パウロ回心日礼拝
19(木)	3年聖パウロ回心日礼拝
25(水)	一般入試第1回、帰国児童入試
26(木)	一般入試第1回、帰国児童入試合格発表

10/31(月)	S.P.F.代休
11/1(火)	秋季休業(～5)
7(月)	3年卒業論文提出日
10(木)	2年収穫感謝礼拝
17(木)	1年収穫感謝礼拝
20(日)	学校説明会
24(木)	3年収穫感謝礼拝、学生会会長選挙
25(金)	3年学年末試験(～30)
26(土)	1年他大学進学クラス説明会
12/1(木)	イルミネーション点灯式
5(月)	1・2年期末試験(～9)
21(水)	2学期終業式、3年クリスマス礼拝
22(木)	冬季休業(～1/7)
25(日)	スキー学校(～29)
1/10(火)	3学期始業式、宿題試験、3年聖パウロ回心日礼拝
12(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
19(木)	1年聖パウロ回心日礼拝
22(日)	推薦入試
23(月)	推薦入試合格発表

〈2012年度入試要項(願書)の配布について〉

	立教新座中学校	立教新座高等学校
販売	立教新座中学校・高等学校正門右手(門衛所)にて販売しております。 販売時間：8:00～20:00(土、日、祝日も販売) 入試要項：1部1,000円	立教新座高等学校正門右手(門衛所)にて販売しております。 販売時間：8:00～20:00(土、日、祝日も販売) 入試要項：1部1,000円
郵送申込	封筒に「中学校入試要項請求」と明記し、現金書留で下記に請求してください。 〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課 TEL(直通) 048-471-6648	封筒に「高校入試要項請求」と明記し、現金書留で下記に請求してください。 〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 立教新座高等学校 教務・入試広報課 TEL(直通) 048-471-6648
外国在住の方	海外への送付方法につきましては、教務・入試広報課までお問い合わせ下さい。	

〈2011年度 学校説明会日程〉

11月20日(日)

〈中学校〉 ①9:30～ ②11:30～

〈高校〉 13:30～

* 自家用車での来校はお断りします。

* 参加申し込みは不要です。時間までに本校にお越し下さい。上履きは不要です。

Campus News Rikkyo Niiza 第55号

編集：立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課
発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)